

対象畜種

肉用牛

協議会構成員

さがえ西村山肉牛部会、河北飼料用米生産組合、さがえ西村山農業協同組合、北日本くみあい飼料（株）南東北支店山形営業所

飼料用米生産面積

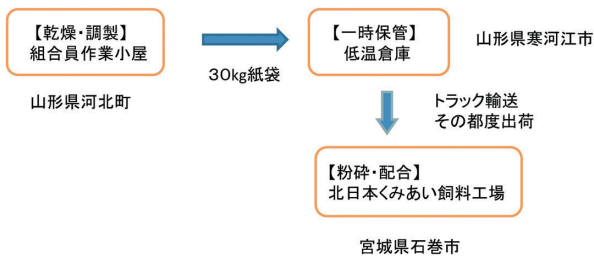
6.9ha

供試品種

ヒメノモチ 6.9ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆主食用米との区分を図るため、生産者は組織に限定した栽培。
- ◆収穫物はJAに全量集荷。
- ◆JA倉庫から粉碎工場までの移送は、飼料会社の手配により確保し実施。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：配合飼料に2%配合。肥育牛に対して10ヶ月齢から32か月齢頃（出荷）まで給与。
調査項目：疾病状況
一日当たり増体重
枝肉成績の比較

取組によってわかったこと

- 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。
 - 飼料工場までの移送は、破袋等の事故もなく実施できました。
 - 生産現場については、異品種混入防止のため、不特定多数の生産は難しいと思われます。
 - 一年を通じての供給となることから、夏場の保管管理の徹底が必要だと思われます。例えば、低温倉庫を利用することが有効だと思われました。
 - 低価格であることから、流通コストの低減が課題であり、そのためには、フレコン袋やバラ出荷できるように共同で乾燥調製施設を利用する必要があると思われました。
 - 早生種のヒメノモチを使用することにより、一般米より早く収穫でき異品種混入防止になっている。
- 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。
 - 食肉会社における枝肉市場の枝肉格付け成績に優位差が見られた。
 - 脂肪交雑が良く、いわゆる霜降り状になる。
- 普及活動について、次のことがわかりました。
 - 生産調整の一手段として、既存の機械を活用でき非常に有効である。
 - 飼料の需要増により飼料用米の生産拡大が必要。
 - 今後は肉牛だけでなく、他の畜種でも実施したい。

JAさがえ西村山 営農経済部
集落営農・水田農業推進課
石垣 正博

参考データ・写真等

枝肉格付け成績B.M.S（牛脂肪交雑基準ビーフ・マーブリング・スタンダード）

| 項目 | B.M.S |
|-------------|-------|
| もち米を給与した肉牛 | 7.9 |
| もち米を給与しない肉牛 | 6.1 |